

『拝啓 鎌倉の皆様』 植木涼太

2019年10月。あの日の鎌倉の景色は今でもぼくの胸の奥で輝いています。町のみなさんはお変わりないでしょうか。あの時6年生だったぼくは、中学3年生になる春を迎えようとしています。2019年10月。卒業を数ヶ月後に控え、小学校での最後の社会科授業として鎌倉に修学旅行で向かうことになりました。出発数日前まで鎌倉の町で見学をしたい場所を何度も本でチェックする日々。きつと見上げるほどの大仏様、厳かな空気漂う鶴岡八幡宮、彩り豊かな鎌倉野菜が立ち並ぶ販売所、本が大好きなぼくたちにとって鎌倉文学館は外せない。江ノ島水族館ではたくさんの魚に触れて、かわいい魚達のショーを楽しむ。考えれば考えるほどたくさんワクワクが鎌倉で待っている事に眠れない日々が続きました。しかし、その出発数日前に大変な事態が起こったのです。大雨をもたらした大型台風が鎌倉を襲いました。修学旅行は決

行されるも、多くの観光場所が拝観中止。自由行動で町を散策するコースも変更しなければならぬ状況で少し残念な日程になると皆が落ち込んでいました。ところが、町で出会うごとに鎌倉の町のみなさんが、せっかく旅行にきてくれたのだからと、至る場所から温かいおもてなしをくれるのです。昼食場所を室内から庭園に変えて頂き、青空の下、学年の皆で笑いながら食べた事。お土産の立ち並ぶ商店街では実際に手に取ってと、魅力あふれる名産品をぼくたちに丁寧に紹介してください。そして、訪れた観光先のたくさんの方から「よく来たね。楽しんでいってね。」と、数え切れないほどの笑顔を頂いた事。大変な状況下であったのに自分の事よりも相手を気遣う本当に心の温かい町だと感じました。ぼくは鎌倉が本当に大好きです。きっと今日も誰かに笑顔を届けているでしょう。鎌倉の皆様、たくさんの思い出と大好きをくれてありがとうございました。